

令和3年度第2回地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会 議事要旨

日時 令和3年7月29日(木) 16時00分から18時30分
場所 加古川中央市民病院 管理棟3階 会議室
出席者(委員) 森脇委員長
加堂副委員長
中田委員
溝端委員
石井委員

報道関係者 0名
傍聴者 0名

会議次第
1. 開会・あいさつ
2. 諮問書の提出・受理
3. 議題
 (1) 令和2年度業務実績に関する評価について
 (2) 中期目標期間業務実績に関する評価について
 (3) その他
4. 事務連絡・閉会

配付資料

資料①：令和2年度の業務実績に関する小項目評価

資料②：第2期中期目標実績評価

参考資料①：地方独立行政法人加古川市民病院機構 中期目標期間評価実施要領

参考資料②：第2期中期目標実績評価

1. 開会	開会の宣言
	森脇委員長よりあいさつ
	本日は第2期の最終年度である令和2年度の実績評価について、委員会としての小項目ごとの評価を出したいので、いつものように活発な意見交換をお願いしたい。
2. 諮問書の提出・受理	市長が公務のため、荻野健康医療部長が諮問書を読み上げ、森脇委員長へ手渡した。
3. 議題	(1) 令和2年度業務実績に関する評価について
	<p>小項目評価</p> <p>事前に提出いただいた各委員の評価について、評価が異なる小項目を中心に質疑及び議論を行い、委員会としての評価を決定していくことを委員長から各委員へ説明があった。</p> <p>【大項目】1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>【中項目】1 市民病院として果たすべき役割の発揮</p> <p>【小項目】(2) 災害時等の医療協力</p> <p>法人自己評価：4 委員事前評価：4（2人）、5（2人） ⇒ 評価委員会評価：4</p> <p>(委員の主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体が崩壊する状況であるため、新型コロナウイルス感染症を災害としてとらえることができる。 ・初期の段階から新型コロナウイルス感染症の対策等、適切な対応を行い、医療をしっかりと支えている。 ・地域の拠点病院としての役割を十分に果たしたと感じており、高く評価したい。 ・コロナに対するエビデンス等が不十分で予測できない部分が多い中でも、コロナ対策を行い、地域の医療を守ることができたと思う。高く評価したい。 ・コロナに関する情報が少なく、検査数を減らさざるを得ない面もあったと思う。 ・既に十分に地域の拠点病院としての責任を果たしていると思うが、コロナ対策は今後も継続するものなので、さらなる対応を期待したい。 <p>【小項目】(3) 予防医療の提供</p> <p>法人自己評価：3 委員事前評価：3（2人）、4（2人） ⇒ 評価委員会評価：3</p> <p>(委員の主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な検査機関が人間ドックや検診等を行わなくなった影響で、検査や検診に対するニーズが高まっていた。市民病院においても令和2年4月～6月は感染防止の観点から一律に制限していたが、制限解除後にそのニーズを捉えて、もう少し臨機応変に実施できたかもしれな

い。

- ・新型コロナワクチンの接種対応を行ったことについて、計画性や協力体制を評価したい。
- ・人間ドック受診者数は減少したものの、コロナ禍で減少することは仕方ないと思う。また、中核病院として専門的な検査を提供している点を評価したい。
- ・人間ドック受診者数が減少したことで、本来発見できたはずの病気が発見できない等の可能性が懸念される。

【中項目】 2 高度・専門医療の提供及び医療水準の向上

【小項目】 (2) 総合診療体制とチーム医療の充実

法人自己評価： 3

委員事前評価： 3 (2人)、 4 (2人)

⇒ 評価委員会評価： 4

(委員の主な意見)

- ・新型コロナウイルス感染対策のため従来通りのチーム医療を実施できない状況であり、関連する指標に影響が出るのは仕方がない。
- ・コロナ患者の病床を迅速に増やし県下最大の人数を受け入れた時もあり、スタッフの連携をよく行っていた点を重視したい。
- ・コロナ禍でも多種の職種の方が集まって協力し、充実したチーム医療を行えたと思う。

【小項目】 (3) 専門性及び医療技術の向上

法人自己評価： 3

委員事前評価： 3 (2人)、 4 (2人)

⇒ 評価委員会評価： 4

(委員の主な意見)

- ・ダヴィンチの稼働件数を増やすのが難しい状況の中で、稼働件数を増やせた点を評価したい。
- ・マグネティックナビゲーションシステムの稼働件数がやや少ない点に気になる。
- ・看護外来の開設を高く評価したい。

(法人回答)

- ・ホームページ上で病院指標を公表した点や、看護外来を推進することができた点は高く評価できると考えている。

【小項目】 (4) 臨床研究及び治験の推進

法人自己評価： 4

委員事前評価： 3 (3人)、 4 (1人)

⇒ 評価委員会評価： 3

(委員の主な意見)

- ・昨年度は研究を積極的に行える状態ではなかったが、それでもある程

度の件数をこなせたのは、しっかりとした研究体制が構築できているからだと思う。

- ・ 治験実施件数が前年の2件から3件に増加している点を評価したい。

【中項目】3 安全で信頼される医療の提供

【小項目】(2) 患者とともに進める医療の推進

法人自己評価：3

委員事前評価：3（1人）、4（3人）

⇒ 評価委員会評価：4

（委員の主な意見）

- ・ 特に「医師からの病状説明に対する満足度」が高く素晴らしい。丁寧に説明して患者の理解を得られていると思う。若い医師も多い中、教育指導が行き届いていると思う。
- ・ 「医師からの病状説明に対する満足度」が高い点について、若い医師にどのような指導を行っているのか知りたい。

（法人回答）

高度医療を進めるほど、技術を追求するあまり、患者への対応がおろそかになりがちである。毎年、入職時のオリエンテーションで理事長から「豊かな人間性を育ててください。」という話を行っている。これがどの程度現場に反映されているかは不明だが、実際に若い先生でもしっかりと説明を行っているのが見受けられる。また、今の世代では授業で医療面接等についてしっかりと教えられていることもあり、患者への対応が身についていると思う。そうした点により、「医師からの病状説明に対する満足度」が高い水準となっているのではないかと。

【小項目】(3) 患者ニーズに対応したサービスの充実

法人自己評価：4

委員事前評価：3（1人）、4（3人）

⇒ 評価委員会評価：4

（委員の主な意見）

- ・ 特に入院患者の満足度は例年高い数値となっているが、令和2年度は患者一人当たりの対応時間が多いこともあり、さらに満足度が上がっている。しかし評価としては法人の自己評価をベースに考えたい。
- ・ コロナ禍にもかかわらず活動指標がすべて向上している。
- ・ iPadの導入や待ち時間短縮の取り組みについても評価できる。

【小項目】(4) わかりやすい情報提供の推進

法人自己評価：4

委員事前評価：3（3人）、4（1人）

⇒ 評価委員会評価：3

（委員の主な意見）

- ・ 広報誌は内容が充実しており、まさにわかりやすい情報提供を行えて

いる。

- ・ 広報誌について、わかりやすい情報の提供という点では評価できるが、発行回数や発行数が前年と変わっていない。
- ・ ホームページに対する満足度調査が実施されていない。できれば次回は満足度調査を行ってほしい。
- ・ 情報提供の方法として広報誌以外にもまだまだやり方があるだろうという点をふまえて判断したい。

(法人回答)

ホームページがあまり更新されず、内容があまり変わっていない状態があるので、改善したい。

【大項目】 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

【中項目】 1 自律性、機動性及び透明性の発揮

【小項目】 (1) 柔軟で即応性のある組織運営

法人自己評価： 4

委員事前評価： 4 (3人)、5 (1人)

⇒ 評価委員会評価： 4

(委員の主な意見)

- ・ コロナ対策本部では毎週会議を重ねながら運営しており組織体制等について評価できる。
- ・ 今後もパンデミックの状況は続くと思うので、今後も柔軟で即応性のある運営をさらに期待する。
- ・ 活動指標として直接数値に現れない部分ではあるが、コロナ対策本部等、柔軟な組織運営をされた。

【小項目】 (3) 効率的な業務体制の推進

法人自己評価： 3

委員事前評価： 3 (3人)、4 (1人)

⇒ 評価委員会評価： 3

(委員の主な意見)

- ・ 他の病院では、緊急事態宣言を受けて不要不急の会議や委員会等を中止せざるを得ない状況があり、運営等で色々な問題が生じたが、市民病院では WEB 会議システムを利用して委員会等を開催し、運営を滞りなく推進させたことは非常に評価できる。
- ・ 2021 年度に導入される事務支援システムがうまくいくか注目したい。

【中項目】 2 やりがいを持てる病院づくり

【小項目】 (1) 職員の満足度の向上

法人自己評価： 4

委員事前評価： 3 (3人)、4 (1人)

⇒ 評価委員会評価： 3

(委員の主な意見)

- ・コロナ禍で様々な不安を抱えている職員が多い中、カウンセリング等を行い、しっかり対応している。
- ・職員満足度が 0.2 下がっているものの、もっと下がっていてもおかしくない状況であった。この程度の減少で留められていることは評価できる。
- ・職員満足度や、やりがいや誇りを感じると答えた割合が下がるのはやむを得ない状況である。今後、これらの数値がどれくらい戻るのかに注目したい。
- ・職員の離職防止のためにどのような取り組みを行っているのか知りたい。

(法人回答)

- ・コロナ患者の病棟で勤務する看護師はリスクを抱え大変な思いをしているので、そうした職員の努力を認めるようにしている。また、コロナ患者と直接関わりのない看護師であっても、同様の不安やストレスを抱えているため、職種にかかわらず同じように認めてあげることが必要だと感じる。また、やりがいも大事だが、それだけでなくしっかりと手当を与えるようにしている。なるべくやりがいと収入の両方でカバーを行っている。
- ・配置場所の変更により自分の所属について不安に思うスタッフもいる。今起きている状況を職員一人一人に理解してもらうことが大切だと思うので、しっかりと説明を行い、みんなで乗り切る風潮を作ることが大切である。現状では、職員がやりがいを感じるというよりは、精一杯今を乗り切っている状態である。将来的には市民病院で働くことに誇りを持てるような職員になっていただきたいが、まだそこまでは達していない部分がある。

【小項目】(2) 人事制度の効果的な活用

法人自己評価： 4

委員事前評価： 3 (3人)、4 (1人)

⇒ 評価委員会評価： 3

(委員の主な意見)

- ・上司と継続的にコミュニケーションをとれる制度が素晴らしいと思う。
- ・具体的にどのような面談を行っているのか知りたい。

(法人回答)

- ・年度計画を病院の目標や各部門の目標に落とし込み、一人一人の役割に応じて上司との面談で目標を設定している。半期に1回、上司との面談を通じて目標達成状況を振り返り評価している。評価の内容は一定程度、賞与にも影響する仕組みとなっているが、人材育成の面で行っている。

【小項目】(3) 働きやすい職場環境の整備

法人自己評価：4

委員事前評価：3（2人）、4（2人）

⇒ 評価委員会評価：3

（委員の主な意見）

- ・13項目ある活動指標について、達成できているものとできていないものがある。
- ・コロナ禍にもかかわらず、看護職の離職割合が減っている。ストレス相談窓口を設ける等、コロナ診療にあたる職員の不安を解消に努めている結果と思われ、評価できる。
- ・今後も継続して新しい課題に取り組んでほしい。
- ・職員の相談件数が増えており、相談窓口等の設置だけでなく、相談の原因を未然に防止する取り組みも必要であると思われる。

【大項目】3 財務内容の改善に関する事項

【中項目】2 収益の確保及び費用の節減

【小項目】(2) 費用の節減

法人自己評価：4

委員事前評価：3（2人）、4（2人）

⇒ 評価委員会評価：3

（委員の主な意見）

- ・給与費比率は増加しているものの、全体的に目標を概ね達成できている。
- ・給与費比率は、コロナや働き方改革の影響で増加するのは仕方がないと思う。

（法人回答）

コロナで収益が落ちたことと、人件費が上がったことにより、給与費比率が上がってしまった。働き方改革により医師や看護師を、どれくらい増やせばよいのかについて慎重に考えていかなければならない。人数に応じて収益が増えないこともあるので、そのあたりを考えながら働き方改革がスムーズにいくようにしたい。

【大項目】4 その他業務運営に関する重要事項

【中項目】2 地域社会への貢献

【小項目】(1) 実習施設としての役割

法人自己評価：4

委員事前評価：3（3人）、4（1人）

⇒ 評価委員会評価：3

（委員の主な意見）

- ・ほとんど実習がストップしている病院が多い中、積極的に受け入れを行った。

	<p>【小項目】(2) まちづくりへの参画 法人自己評価：3 委員事前評価：3（2人）、4（1人）、5（1人） ⇒ 評価委員会評価：3 （委員の主な意見） ・ 県や市の施策と連携し、積極的に行政課題に対応した点を評価する。 ・ コロナ対策等の行政課題に即応した。</p> <p>【小項目】(3) 地域住民との交流 法人自己評価：4 委員事前評価：3（3人）、4（1人） ⇒ 評価委員会評価：3 （委員の主な意見） ・ コロナ禍という大変な時期のため、地域から医療従事者への応援や感謝があった。</p>
	<p>(2) 中期目標期間業務実績に関する評価について <業務実績評価の実施要領について、事務局より説明> <実績評価の自己評価について、法人より説明> ※委員の評価・意見について、8月11日（水）までに提出を依頼</p>
	<p>(3) その他 意見なし。</p>
<p>3. 閉会</p>	<p>閉会の宣言 <加堂副委員長あいさつ> 長時間、熱心な討議をありがとうございました。昨年度はコロナ禍ということで、色々な条件が変わっており、活動指標が昨年度と同程度の項目について、令和元年度と同じとするか、コロナ禍においてはより上回っているとするかで評価の判断が分かれたところもあったが、最終的にうまくまとめることができた。 現在第5波がやってきているが、法人の優れた組織・管理・医療をもって乗り越えてほしいと思う。市民だけでなく我々もこの状況に慣れてきている部分があるので、改めて気を引き締めて乗り越えていきたい。</p>